

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

愛知県小牧市

2023年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

小牧市SDGs未来都市計画

～子どもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

小牧市SDGs未来都市計画～こどもたちの夢への挑戦を応援し、未来につながるまち～

## (2) 2030年のあるべき姿

1. 経済（1-1. 若年世代から支持される魅力あふれるまち、1-2. 経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまち）
2. 社会（2-1. こどもを中心にすべての世代がつながるまち、2-2. すべての市民が共生するまち、2-3. 健康と支え合いが循環するまち）
3. 環境（3-1. 循環型社会による環境にやさしいまち）
4. その他（4-1. 新型コロナウイルス感染症を糧に新たな脅威にも対応できるまち）

## (3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済			社会		環境

## (4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	従業者数（製造業、卸売・小売業）【8.3 8.5 8.8 9.2 10.2】	2016年 51,353人	2021年 51,533人	2030年 53,093人	103%
2	合計特殊出生率【3.7 3.8 4.1 4.2 4.3 4.a】	2018年 1.35	2021年 1.17	2030年 1.80	-40%
3	市内温室効果ガス排出量【7.2 7.a】	2017年 2,165千t-CO <sub>2</sub>	2020年 1,865千t-CO <sub>2</sub>	2030年 1,805千t-CO <sub>2</sub>	83%
4	協働による事業実施数	2020年 52事業	2022年 73事業	2030年 100事業	44%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】目標値に対しての進捗が遅れている。令和4年度に市の産業振興の方向性を示す『小牧市企業新展開支援プログラム』について、中小企業のDX、次世代産業に関する人材育成、人材確保に関する支援等を新たに取り入れた改定を行った。これにより令和5年度以降企業のさらなる雇用創出を図る。

【社会】合計特殊出生率が減少した理由は分母となる15歳～49歳の女性人口が増加している一方で、出生数は減少したためである。前年の2020年からまん延した新型コロナウイルス感染症の影響により出会いの機会の減少や出産を控えた夫婦がいることも要因と推測される。なお、市独自の子育て支援施策として0～2歳児の認可保育施設に係る保育料無償化及び中学生第2子の給食費無償化（第3子以降の小中学生の給食費無償化は実施済）を令和5年度より実施している。

【環境】目標値に対して順調に進捗している。省エネルギー型機器・再生可能エネルギーを導入する市民に対し設置費用を助成する補助メニューに新しく電気自動車等充電設備を追加し、電気自動車の普及を図った。

【その他】本市では「経済」「社会」「環境」のほかに軸である「目標17.パートナーシップで目標を達成しよう」を主軸としている。そのために企業、市民活動団体、学校等との協働事業は順調に増加しており、「目標17.パートナーシップで目標を達成しよう」を推進することができた。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	中心市街地のにぎわい創出（【2030年のあるべき姿1-1】に向けた取組）	中心市街地に立地している施設の来館者数	2021年6月 - 万人	2021年 86.8 万人	2022年 114.2 万人		2023年 75 万人	152%
2	持続して発展を続ける産業・経済の確立（【2030年のあるべき姿1-2】に向けた取組）	支援活動により生産性が向上した企業数	2020年 3 件	2021年 8 件	2022年 4 件		2023年 20 件	6%
3	こどもたちの夢への挑戦を応援する体制の構築（【2030年のあるべき姿2-1】に向けた取組）	将来の夢や目標を持っているこどもの割合	2020年 81.6 %	2021年 78.5 %	2022年 78.9 %		2023年 85.1 %	-77%
4	ダイバーシティの形成（【2030年のあるべき姿2-2】に向けた取組）	交流事業の参加者数	2020年 2,130 人	2021年 1,190 人	2022年 1,281 人		2023年 2,500 人	-229%
5	健康と支え合いの地域内循環の構築（【2030年のあるべき姿2-3】に向けた取組）	生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合	2020年 76.6 %	2021年 79.5 %	2022年 - %		2023年 82.9 %	-
6	ゼロカーボンシティの実現（【2030年のあるべき姿3-1】に向けた取組）	再資源化率	2020年 37.0 %	2021年 36.6 %	2022年 36.5 %		2023年 37.8 %	-63%
7	新型コロナウイルス感染症への対応と「新たな日常」の実現（【2030年のあるべき姿4-1】に向けた取組）	組織横断的なプロジェクトチームの設置数	2020年 4	2021年 5	2022年 6		2023年 7	67%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

## 【登録・認証制度の導入】

2023年3月「小牧市SDGs登録制度」を開始し、同時に、登録企業・団体等が自身の活動を自ら発信し、交流することができる場である『小牧市SDGsまちづくり交流サイト』を開設した。これにより企業・団体等のSDGsに資する取組のさらなる推進を図る。なお、本市ではすでにNPO法人が先行して宣言制度を開始していたことから、「登録制度」の開始により、「登録」「宣言」の2層構造となった。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

(指標No1) 中心市街地のにぎわい創出に関しては、新型コロナウイルス感染症が一定の落ち着きを見せる中で中央図書館やこまきこども未来館、こまき市民交流テラス等を訪れる人が増えたことにより令和3年度を超える来館者数となったと考える。

(指標No2) 企業支援については単年度の支援件数は減少したが、令和5年度以降に向け、アフターコロナの持続可能な社会を支える産業・経済の確立を図るため『小牧市企業新展開支援プログラム』を改定し企業支援の強化を図った。

(指標No3,4,6) 夢や目標を持つこどもの割合や日本人市民と外国人市民の交流事業の参加者数、再資源化率については、新型コロナウイルス感染症の影響により市民に向けた周知啓発及び事業の実施ができなかったことから達成度がマイナスになっていると考える。今後は社会情勢に合わせた方法での周知啓発や事業の実施に取り組んでいく。

(指標No5) 「生きがいを持って暮らしている65歳以上の割合」についてはまちづくり推進計画（市の最上位計画）の進捗確認のためのアンケート調査にて把握する数値だが、今年度は同計画の改定年度のため調査未実施であり回答不可。

(指標No7) 組織横断的なプロジェクトチームとして令和4年7月に『支え合い人材育成プロジェクトチーム』を設立し、地域の支え合い助け合い活動の担い手を育成する手法について調査研究を行った。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・中心市街地施設への来館者数は着実に増えているように見受けられ評価できる。
- ・特に子供に着目し、経済、社会、環境の三側面に留意したバランスのとれた取組が着実に推進されていると評価できる。今後は、取組指標の達成率の向上を期待する。